

### 1 はじめに

本校は児童数 16 名、3 学級（1・2 年及び 5・6 年複式学級、3 年単学級）の学校である。近隣の学校（徳田小、田野小）とは普段の交流学习だけでなく、修学旅行や自然の家などの行事を通して交流を図っている。西条市では平成 27 年度より文部科学省の「人口減少社会における ICT の活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1364592.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1364592.htm)）に応募し、本校を含む上記の 3 小学校で WEB 会議システムを用いた合同授業について研究している。

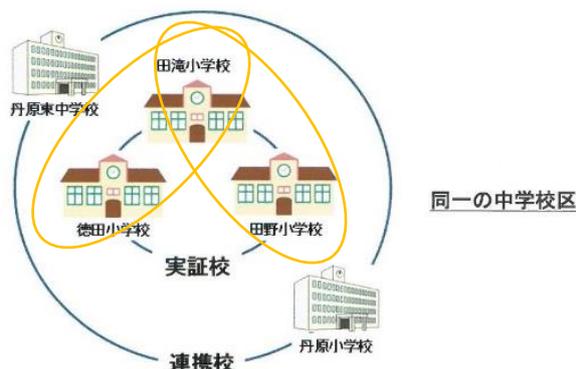
### 2 事業の目的

- より多くの人数で授業をすることにより、児童が多様な意見や考えに触れたり、社会性を養ったりできるように授業の質の向上を目指す。
- 同じ中学校に進学する児童同士で交流することで、中一ギャップの軽減を図る。
- 教員同士の交流を通して、授業力の向上や校務の軽減を図る。

### 3 事業の概要

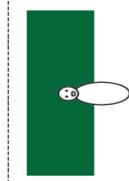
#### ○ 接続のイメージ

実証校 3 校が核となり、3 校のうち 2 校をつないで遠隔合同授業を行っている。

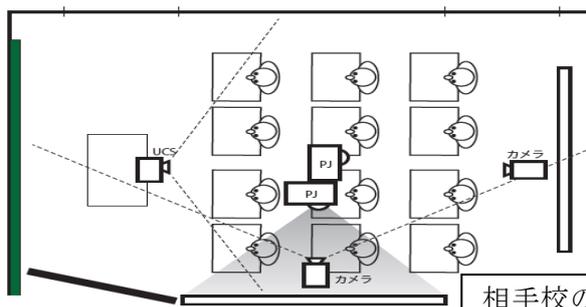


#### ○ 教室のイメージ

相手校の先生



相手校の先生が教室前面のスクリーンに映り、実際に自分たちの教室で授業をしているような感覚の中で学習を進めることができる。



相手校の児童



相手校の教室の様子が側面のスクリーンに映り、相手校の児童と一緒に学習をしているような感覚の中で学習を進めることができる。

#### ○ 使用機器

大型スクリーン、プロジェクター、WEB会議システム、電子黒板、マイク・スピーカーシステム、タブレットなど

## 4 授業の様子



相手校の先生の話をしている様子



相手校の児童の発表をしている様子

- 一方の学校の教員がT1（授業者）となり、もう一方の学校の教員がT2（補助者）となり、授業を行った。
- 現在までに行った教科は国語、社会、算数、道徳、学級活動、外国語活動である。複式学級2学年全員で交流学习を行った教科は社会、道徳、学級活動、外国語活動で、1学年のみで交流学习を行った教科は国語、算数である。
- 電子黒板も双方向の送受信が可能であり、両校で同じ画面を見ることができる。

## 5 成果と課題

### 【成果】

- たくさんの意見や考えに触れることができるので、児童は合同授業を楽しみにしている。授業後の児童たちの感想は「新しい友達ができ」「他校の友達の意見を聞くことが楽しみだ」というものであった。少人数授業では味わえない多くの友達との交流を通して、学び合う楽しさを味わったり、コミュニケーション能力の向上につながったりした。
- 機器の選定や配置を工夫することにより、同じ教室に相手校の先生や友達がいるような一体感のある雰囲気を作ることができた。本校の卒業生の中には中一ギャップに悩まされる児童もいることから、その解消にも効果があると感じている。
- 授業前後の打合せ等を通して、教材や児童に関する思いを共有したり、指導観を深めたりでき、各校の教職員同士の交流が増えた。

### 【課題】

- 活動内容の確認、機器のトラブル等で授業内の活動時間が少なくなったり、交流している学校全ての発表を聞くために時間が掛かったりして、45分の授業時間で学習内容の指導ができず、各校で追加の授業を行わなければならなかった。
- 少ない人数の時にはほとんどの児童が意見を発表していたが、人数が多くなることで緊張し発表できなくなった児童が出てきたため、回数をもっと重ね、場に慣れさせる必要がある。
- 交流学习の回数が多くなるにつれ、打合せの時間の確保等が難しくなるので、教育課程の見直しと工夫が必要である。
- ここまでの機器が充実している学校は少ないと思われるが、工夫によっては現在ある機器を使って近い形の授業はできるのではないかと思う。今後、市町の理解と協力を得て、この活動ができる学校が広がれば、へき地等学校や複式学級の指導法の可能性がさらに広がると感じる。